

看護技術習得における多視点型ビデオ教材の効果 Effects of multi-viewpoint videos for nursing skill acquisition

村上正和[†]
Masakazu Murakami

[†] 中京大学通信制大学院情報科学研究科
Graduate School of Computer and Cognitive Sciences, Chukyo University
mmurakami@vgc-cs.sist.chukyo-u.ac.jp

Abstract

This paper reports some preliminary results showing the effectiveness of teaching videos taken from multiple viewpoints for nursing skill acquisition. The video taken from the care-giver's first-person perspective was found effective to give details of the care procedure, hinting using this with the usual, third-person perspective would be particularly useful. The second-person perspective video solicited sympathetic understanding.

Keywords — Nursing skills, Video teaching material

1. はじめに

これまでの看護ビデオ教材は看護者を傍らから眺める3人称視点から作成されたものがほとんどであった。仮説として3人称視点には看護者・使用物品・クライアント(被援助者)を一画面内に収めることができ、それぞれの位置関係や技術施行の流れを把握しやすいことが利点として考えられる一方、1人称視点は看護者の視点をそのまま再現することにより高い心理的没入感が得られ、擬似的ではあるものの「体験知」としての学習が行えるのではないかと考えられる。また2人称視点、つまりケアを受ける患者の視点から看護技術を見ることは、客観的に自分達看護者の行為を見ることができ、対象としての患者の気持ちを学ぶ機会になると考えられる。そこで本研究では、これらより多角的な視点で看護技術を捉えるため、3人称視点のみではなく、1人称視点教材及び2人称視点教材を加え、互いにそれぞれの不足を補い合い、効果的な学習ができるかどうかを検討した。具体的には、1・2・3人称視点を取り入れた多視点型看護技術ビデオ教材を作成し、看護学生の看護技術の修得に効果的であるかを検討する。今回はそのための予備調査の結果を報告する。

2. 予備調査

2.1 調査対象

A 大学看護学科に在籍する学生:3学年 5名

2.2 教材の作成

小型カメラ(ATC3K:Oregon社)を頭部に固定し、看護技術「三角筋への筋肉内注射」において「訪室」～「実施」～「退室」までを1・2・3人称視点それぞれから撮影、5分程度に編集をして教材とした。

2.3 実施方法

1) 各ビデオ教材を視聴してもらい、視聴後、以下のテーマでディスカッションしてもらい、その内容を記録、分析した。

- ① このビデオを見て気付くことはあるか。
- ② いつも見ている教材ビデオと比べて、違うところがあるか。
- ③ ビデオ内の看護師は、患者の安全面に考慮してどんなことに注意していたか。
- ④ ビデオ内の看護師は、患者の安楽面に考慮してどんなことに注意していたか。
- ⑤ その他にケアのポイントとなる点はどこか。
- ⑥ 患者は実施中どんなことを考えていたと思うか。
- ⑦ このビデオを見てわかりやすかったこと・学べたことは何か。
- ⑧ このビデオを見て自分でも実施できそうか。自信のないところはどこか。
- ⑨ 臨場感・感情移入度はどれくらい感じたか。それがどのくらい学びにつながったか。

2) これまでの教材(3人称視点)と、新たな教材(1・2人称視点)と比較するため、3人称視点、1人称視点、2人称視点の順に視聴してもらった。

3) 視聴中はビデオの巻き戻し・繰り返しを可とし、

気付いたことはメモを取ってもらった。ディスカッション時にも、ビデオを視聴できることとした。

2.4 分析方法

ディスカッションで出された意見を区単位でコード化、表1の内容でラベル付けをして分析を行った。

表1 分類ラベル一覧

	ラベル名	分類基準
i	学びの深化	他視点と比べ、もしくは他視点と併せることで学びが深まったという発言
ii	看護師・患者の気持ちを察した発言	看護師・患者の思考や感情を予測した発言
iii	映像の見にくさ・わかりにくさ	ビデオ教材に対しての不評・修正点を示す発言
iv	安全・安楽への考慮	患者の安全・安楽に関する発言

3. 結果

各ラベルについて発言された生起頻度の結果を発言例とともに表2、表3、表4に示す。

表2 3人称視点の分類結果（全35コード）

ラベル	生起頻度	発言例
i	8	物品類を置く位置がわかりやすい。
ii	2	「痛くないかなー」という恐怖は感じた。
iii	6	看護師がどこを見ているかがわからない。
iv	14	誤刺入・しびれがないか確認していた。

表3 1人称視点の分類結果（全32コード）

ラベル	生起頻度	発言例
i	10	手元は見やすかった。患者の表情が見えやすい。
ii	4	自分がやっている気になれる。
iii	9	実際の両手の動きがわかりにくい。(右手を見ている時、左手が何をしているか見えない)
iv	6	手元が見えるので、針刺し事故に気を付けていることがわかった。

表4 2人称視点の分類結果（全38コード）

ラベル	生起頻度	発言例
i	10	技術を学ぶというより、患者の気持ちを学ぶ教材だと思った。
ii	10	他のどの視点よりも患者の恐怖感がわかった。
iii	9	看護師が何をしているかは最もわかりづらい。
iv	6	看護師がどのように患者に話しかけているか、表情を見れる。

4. 考察

3人称視点では、全体の位置関係や看護師の動作について学ぶことができるが、手先動作の詳細部分や看護師が何に注目しているかにおいては、学習しづらいと思われる。技術のポイントは全ての視点教材においてほぼ述べるできていた。

1人称視点では、3人称視点とは逆に手元の詳細や看護師が注目している部分を学習することができていた。しかし、技術の全体把握としては不十分であり、3人称視点と併せて使うことで互いに補完しあいながら技術の習得に効果を上げることが考えられた。

2人称視点では対象者である患者の心情を学ぶ良い機会となっていた。また、患者側から看護師を客観的に見ることができ、サービス提供者としての看護師の在り方について学ぶ機会となっていた。しかし、技術の習得においては教材として不十分であり、「見せ方」としての撮影手法に課題が残った。

各視点に対する学生の認識の傾向が把握できたが、撮影手法に課題が残った。どのビデオをどの順序で見せれば学習効果が高いのかといった順序効果についても今後考えていく必要がある。また、学習のポイントに学生をナビゲートするためのナレーションや工夫も考慮する必要があるだろう。以上を踏まえて今後本調査を行う。

5. 参考文献

- ・三宅新二他, (2003) “ビデオ画像を利用した教材システムの提案”, 信学技報, Vol.10, pp.13-18.